

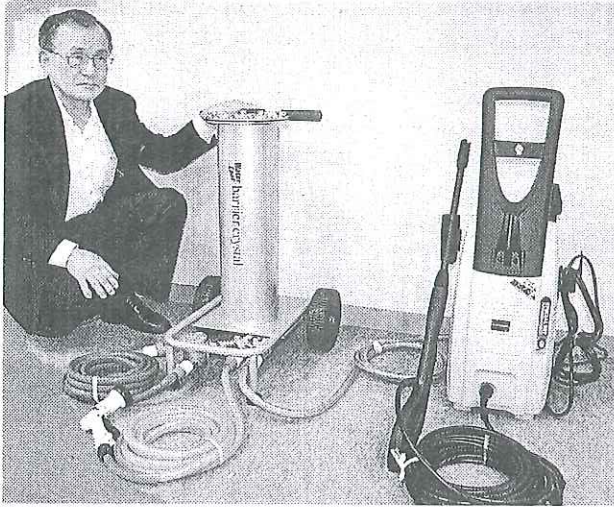
本 四 海 峡  
バ ス 子 会 社

# 車両表面汚れから守る

# 保護膜装置を開発、販売

本四海峡バス(神戸市中央区)子会社の本海商事(同)は、バスや鉄道車両の表面を汚れから守る「コーティング装置」を開発、販売を始めた。コーティング作業は手間がかかるため、これまで交通事業者の悩みの種だったが、自動車のボディの表面保護などに使われている技術を活用、作業コストの軽減を図った。

(足立 聡)



本海商事などが開発したバス・鉄道車両向けのコーティング装置。大阪市内

同装置開発会社のエヌエム(福井市)と共同で、特殊なセラミックが入っている。これに水道水を通すと、ガラス成分を含む弱アルカリイオン水に変質。高圧洗浄機などで車体に吹き付けて汚れを取り除くとともに、表面にガラス質の保護膜をつくるという。

コーティングの基本技術は、自動車販売会社が母体のエヌエムが開発した。耐久性に優れ、短時間で作業ができるため、全国各地の新車ディーラーなどに納入しているほか、交通事業者では阪急電鉄(大阪市)が

全線で導入。本海商事とエヌエムの両社は、さら

に多くのバス・鉄道会社で使えるよう、装置の小型・軽量化などを進めた。すでに本四海峡バスが採用したほか、JR東日本子会社のジェイアールバス関東(東京)も昨年12月から試験的に導入。

効果が確認され、実用化にめどが立った。販売価格は1台60万円。本海商事の橋本哲雄社長は「誰でも簡単に短時間で作業ができる利点があり、全国のバス・鉄道会社に販売していきたい」と話している。

(3) 2011年(平成23年)9月8日(木曜日)

# ウォーターコート装置開発

本海商事(神戸市)とエヌエム(福井市)は共同で、大型バスや鉄道車両などの洗車時にワックスを使用せずにボディーの光沢を保つ大型車両専用「ウォーターコート装置」を開発、5日から発売を始めた。ウォーターコート水を高圧洗浄機でボディーに吹き付けるだけで様々な劣化要因から半永久的に防護する。

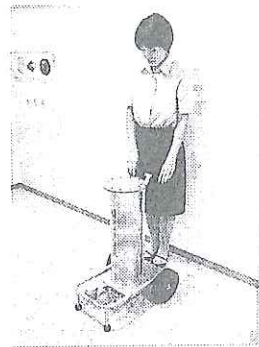
バスなどのボディーはケミカル系ワックスを数カ月ごとに塗り替えているのが現状だが、手間と時間を要する半面、光沢は長く持たず、水アカなどが表面に浮いてくる。新車と10年使用車との光沢の違いは歴然だ。両社は、特に大型車両の光沢を新車時の状態に保つコーティング装置を研究した。

従来のコーティング

## バスなど大型車の光沢保つ



ウォーターコートの吹きつけ



装置の本体

本海商事とエヌエム

は、コーティング剤をポリッシュで擦り込んだり、スプレーで塗布したりしてコート皮膜で覆う原理だ

改質するもの。このため汚れが付きにくく取れやすくなり、美観維持の労力を軽減できる。水道水や工業用水を同装置内のセラミックに通水し、市販の高圧洗浄機で吹き付けるだけでコーティングできるのも大きな特徴だ。同装置は、高速バスの本四海峽バスとジェイアールバス関東の車両で実証実験を経て販売を始めた。小型軽量化を図っていることから大型車両のみならず乗用車など対象を選ばない。余剰水も無機質成分のためそのまま排水できる。

同装置1台で水20万ℓまで使用可能。大型バスの場合、1回の洗車で200ℓを使用するとして約1千台コーティングできる。オープン価格だが実勢60万円台。問い合わせは本海商事(☎078・393・0100)、エヌエム(☎0776・24・3428)まで。



# バスなど大型車専用

## ウォーターコート装置開発 高い耐久性実現

エヌエム

【福井】ウォーターコートなどホディーコーティングのエヌエム(松井正己社長)は、バス・鉄道車両専用の

ウォーターコート装置「WB-01」の写真を開発、販売する。強固なガラスコート皮膜で高い耐久性と低コスト、省力化を実現する。JRバス関東などと実車テストを行い効果を立証した。

これまで施工が困難とされてきたバスや鉄道車両へのガラスコーティングを可能にした。大型バスのコーティング施工は、使用環境や耐久性、作業性、施工コストなどの問題で困難だった。そのため大型バスの場合、門型洗車機による水洗いや一部洗剤による洗車だけだった。本格的な水

ディーコーティング施工はほとんどできていなかった。鉄道車両も同様だった。

従来、ウォーターコートとして使用した専用セラミックを大型車の洗浄・コーティングに使用しても機能性が発揮できるよう、また、種々の各種高圧洗浄機に接続しても耐



よる実車テストを行った。この結果、防汚性や施工性、劣化防止、環境性に優れていることを立証し

久効果があるようセラミックの改良を行い、セットアップタイプの専用機を開発した。同社は、代理店の本海商事と共同で昨年12月から9カ月間、JRバス関東で都市型汚染テスト、本四海峡バスで塩害防汚テストなど、計45台に

た。これを受けて今後、ウォーターコートの対象として全国バス協会会員、その他のバス事業者など5543社。乗合バスや貸し切りバスなど合わせて10万3561台にアプローチする。

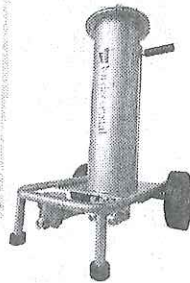
2011年(平成23年)9月22日 木曜日

# コーティング装置発売

## 本海商事 バス・鉄道車両向け

【神戸】本海商事(神戸市中央区、橋本哲雄社長、078・393・0100)は、バスや鉄道車両などの大型車のボディを汚れや紫外線などから守るコーティングを施す装置「ウオーターコ

ート装置WB-011写真」を発売した。価格はオープンだが、実勢価格は60万円程度となる見込み。バス・鉄道事業者向けに、初年度7台で500万円、2012年度は84台で5000万円の売り上げを目指



す。

装置はエヌエム(福井市、松井正己社長、0776・24・

3428)と共同開発。

2種類のセラミックスで水を弱アルカリイオン化し、プラスに帯電したホウ酸シリカやヒドロキシリオンを溶出させる。ボディーの表層部にガラス質の層を作って汚れにくくする。

水道の蛇口と市販の高圧洗浄機の間と同装置をつなぎ、吹き付けるだけで汚れが付きにくく耐候性や耐久性の高いコーテ

ィングが簡単にできる。重量は30キログラムと小型軽量。

作業前に車窓などを覆うマスキングの必要がなく、吹き付けた水はそのまま排水できる。バス一台当たりの費用は水道代も含め約360円と試算。セラミックスは20万円、もしくは約3年間使えるとしている。

10年12月からJRバス関東佐野事業所で汚れ防止の、本四海峡バス徳島営業所で塩害防止の実証テストを行い、好評だったことから本格販売を決めた。

中堅・中小・ベンチャー